

○1番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可を得ましたので、1番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

さて、先日、4年に1度のスポーツの祭典、北京オリンピックが幕を閉じました。今回のオリンピック、いかがだったでしょうか。野球の星野ジャパンの惨敗、また、銅メダルとはいえ、母でも金を目標にしていた柔道女子、谷亮子選手のまさかの敗戦と、残念な結果に終わったものもありましたが、水泳の北島康介選手、そして柔道女子、上野雅恵選手のオリンピック2連覇など、すばらしい成績もおさめられ、数々の感動を与えていただきました。日本は金メダル9個、銀6個、銅10個、合計25個のメダルを獲得する中、私が最も印象に残ったのは、やはり女子ソフトボールの金メダルでありました。エース上野選手の力投、心臓病を克服して出場し、さらに、さよならタイムリーを打った西山選手の活躍など、心に残る名シーンが今でもよみがえってまいります。そして、何よりそのときの閉会式の光景です。退会前にアキレス腱断裂により出場できなかった内藤選手の6番のユニフォームを持ち込んでの表彰式のシーンもあり、そして、それまで死闘を演じた日本、アメリカ、オーストラリアの3チームの選手が入り乱れて、みんなで肩を組み、ボールを「2016」とかたどっての再会を願うシーン、これこそスポーツの醍醐味だと感動しました。

スポーツにはそういった人を動かす力があり、そして、何より愛国心をはぐくむ力があると私は考えます。スポーツの重要性を改めて感じた次第でありましたが、そういう意味からも、まず武雄市のスポーツ振興について質問させていただきます。

オリンピック開催中、やはり愛国心からか、日本を応援しない日本人はいなかったでしょう。同様に、今年度行われる県民体育大会、すべての武雄市民の皆様は武雄市を応援すると思います。今議会の開会日に行われた教育長の教育に関する報告にもありましたように、武雄市からおよそ450名の選手団が派遣されます。ことし伊万里で行われるその県民体育大会ですけれども、来年度、平成21年度の開催地が杵島・武雄地区に決まっております。さまざまな競技がある中で、武雄市内で開催される予定の競技、これが何があるのでしょうか。また、どこを使う予定になっているのでしょうか。これから決まっていくものかと思えますけれども、現在、どのような予定になっているか御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、スポーツは無条件で私どもに活力を与えてくれるわけでありませう。近年、武雄市の県内市町対抗等の競技でも、すばらしい成績を上げてもらっております。

お話にありましたように、来年度は第52回（161ページで訂正）佐賀県民体育大会が武雄市、杵島郡で開催予定でございます。今月末に正式な決定になるかと思えますけれども、

19競技33種目のうち、約半数程度を武雄市内で開催することになるかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

陸上の白岩競技場を初めとする各種さまざまな競技で市内の施設が利用される予定だと思います。19競技33種目中、およそ半分が市内の施設で行われるというような予定だということですが、市内の施設には55回の大会——今回、さっき52回、今度たしか62回大会です。55回大会の実績からいくと、やはりその中に青陵高校のグラウンドだったり体育館だったり、武雄高校のグラウンドというような、そういった施設等も含まれておりますので、実際市有の施設というのは減るかと思えます。それでもやはり白岩を中心に行われると思うわけですよ。

老朽化が目立っているのはだれもが承知していることだと思いますが、この県民体育大会に向けて、どのような整備を行っていくつもりなのか、どのような予算立てを行っていくつもりなのか、あわせて御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変失礼しました。62回でございます。

もう皆様御存じのとおり、かなり体育施設の老朽化等も進んでいるわけでありますが、利用者の安全・安心面に配慮しまして、緊急度の高いものから優先して対応していきたいと思っておりますし、これまでもそうしてきたつもりでございます。

ただ、大規模な改修等は難しいと考えておりますので、県民体育大会の開催種目の決定を見まして、事前に施設の点検及び整備に努めて、やはり緊急度の高いところで可能な限り対応していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

緊急度が高いものから可能な限りと、毎度伺っている答弁ではございます。もちろん財政難といいますか、予算が確保できないと、施設整備の予算というのは減らされている状況というのもよく耳にはします。仕方がないことかもわかりませんが、大会に来られた方、武雄に来られた方に対して、できれば失礼のないような、また武雄に来たいと思っていただけるような準備は必要で、ぜひ少ない予算の中でも、日ごろ利用されている市民の皆さんとか維持管理にかかわられている職員の皆さんの意見を吸い上げて、できるだけそういった皆さんの期待にこたえられるように行ってもらいたいものです。

オリンピックでの日本女子ソフトボールの活躍で日本じゅうが沸いたのは冒頭にも話しましたがけれども、武雄市のソフトボール界でも、武雄中学校の女子ソフトボール部の活躍でこの夏もソフトボール界は非常に沸いておりました。その際に、中学ソフトボール部も全国大会等にも行かれ、平成19年の12月議会でその際の出場補助金も、これまで2分の1というのを御指摘したところ、早速ことしの夏から4分の3まで引き上げて応援していただけるというような格好になりまして、大変助かったという声を私のほうにもいただいております。その際は本当にありがとうございました。

そのソフトボールですけれども、どうしても武雄市内メインでの試合会場として考える場合、やはり白岩運動広場が考えられると思うわけです。その白岩運動広場は市内の施設の中では比較的新しく、よそからも人が呼べる施設であるのかなということから、ここをさらに充実させていただきたいなとも思うわけです。現状では近くに時計もなく、プレーヤーや観戦している方々も時間がわからないような状況であります。これはソフトボールに限らず、少年野球とか、そういった試合をしている人たちも結構時間制限等があったりして、状況がわからない、時計を見ながら試合ができないというようなのも一部あるようで、そういった利用者の声を大事にするような整備をお願いしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。こちらについても御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

運動広場につきましては時計が必要ではないかということもありました。この必要性については理解できますので、今後検討していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひそういった利用者の人たちの声を大事にするような整備をお願いいたします。

それでは、フットサル宣言についてですけれども、フットサル宣言を行っておよそ1年過ぎ、市内では中山鉄工所さんが自前のフットサル場をつくれ、非常に有意義に活動をされているような状況ではございます。これは前議会のときでも伺いました。

そのとき、市の具体的な動きはどうかということでお伺いしましたところ、クリニック等を行っているというような答弁をいただきまして、実際のクリニックなどを行う場合の対象者はどうなっているか。というのも、小学校高学年を対象に入れたほうが私はいいと思うんですけど、そうすると、地元で以前から行われているようなサッカー部の子どもたちですね、そういった方を取り合うような格好になっているというのをちょっと耳にしたわけですよ。だれもが気軽に楽しめることを目的としている関係もあり、子どもたちを取り合うような形

になってはいけないんじゃないかと。市内にはサッカースクールと言ったほうがいいんでしょうか、例えば、FCノーティーズさんとかFCフェルサ武雄さんとか、もちろん山内、北方等にも社会体育として頑張っておられる団体の皆さんがいらっしゃいます。そういった方々と連携を密にしてクリニックや大会、各種講習会等の開催をお願いしたいと思いますけれども、現状はどのようになっているか答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

昨年の5月19日にフットサル宣言をいたしまして、その後、幼稚園や保育園クリニック等の開催をしてきたところでございますが、今お話にありましたように、サッカーをしている子どもたちとの関係ということでお尋ねのところでございますが、武雄市フットサル普及委員会等を設置しておりまして、この中には、サッカー協会、あるいは市内の小・中学校のサッカーを指導しておられる代表の方等々も入っていただいております。ですから、中学校のサッカーをしながら部分的な練習段階でフットサルを入れるとか、そういう柔軟な対応をしてもらっておる例もありますので、この辺の調整は可能かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

○1番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひそういった連携を密にして行っていただきたいと思います。というのも、どうしても競技の特性上、サッカーにとってのフットサル、フットサルにとってのサッカーというのはやはり切っても切れないものがあるわけで、お互いの経験はお互いに非常に活かされるわけです。サッカーの人口の増加はフットサル人口の増加にもつながり、逆もしかり、こういうことから、どちらに影響することなく、どちらも楽しめるようにするべきだと思うわけですよ。

そこで、ちょっと提案といいますか、このフットサル宣言を生かすために、お互いのサッカーのスケジュールを確認して、そしてフットサルの普及委員会で協議をしてもらって、年に1度、フットサルの日というのを制定するというようなやり方はどうかなと思うわけですよ。ですから、年間スケジュールの中に、この日に限っては興味のある人はすべて集まってフットサルを楽しもうと。サッカーをしよる人たちもこの日に限ってはサッカーの大会を入れませんかよと、サッカーをしている人もみんなその日はフットサルを楽しみましょうと、そういうふうに武雄市のフットサルの日といいますか、フットサルフェスティバルといいますか、そういうふうに、やっぱりサッカーとフットサルというのは切っても切れない縁があると思うわけで、もちろんそこにサガン鳥栖の選手とかも招き入れて協力いただいとつか、年に1度はサガン鳥栖のほうとフットサルの試合をすとか一緒に練習をすとか、そうい

った企画等も考えれば、市内はもちろん、市外、県外からも人が集まるような企画になるんじゃないかなと思うわけですが、これについていかが思いますか、御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに上田議員がおっしゃるように、この日がフットサルの日だといったことにしておく
と非常に日程が組みやすいという利点は、教えられて、そうだなと思いました。これにつ
いては、フットサルの日、あるいはフェスティバル、ちょっと名称はともかくとして、制定に
向けて調整をします。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひそういったふうにフットサルの普及といいますか、まちの活性化につながるようなこ
とをやっていたきたいなど。やっぱりそこでサッカーの人たちとも綿密に連携をしてやっ
ていただきたいなと思います。

それでは、またちょっと方向が変わりますけど、これまでの議会で武雄市内の球場、白岩
球場、そしてサンスポーツランド北方球場、この2つの球場にラバーフェンスの設置を要望
し、予算化していただき、今年度行うことになっておりますけど、野球をやられている方が
多数なんですけど、市民の皆さんの中に、いつ設置されるのかと待ち望んでおられる方が多
数いらっしゃると思います。これについて、具体的な日程等が決まっているようであれば答弁を願
いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

白岩球場の壁面緩衝材工事でございますけれども、9月中には設置工事が完了する見込み
という契約をしておるところでございます。内野から外野の門扉付近までということで、間
もなくですから、今、資材を手配中ということまで聞いておりますので、間もなくできるの
ではないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

10月の第2週ぐらいに高松宮杯の2部の全国大会がありますか、どうしてもそれには絶対
間に合わすような段取りにはなっているだろうということで一応答えてはおったんですけど、
9月中ということで安心しました。

それでは、毎度毎度スポーツ振興についてこの席でも訴えておりますけど、先日のある私の恩師との会話を紹介させていただきたいと思います。その方によると、やはり武雄は温泉を生かし切れていないと。メイン会場としての役割が果たせるスポーツ施設があれば、いろんな大会やキャンプが誘致できるのに。合併してサブ会場となり得るものはあるので、武雄市で一手に引き受けられるのに。宿舎もある、温泉もある、そして何よりレモングラスなど新しい特産品を初め、若楠ポークや黒米、イチゴ、キュウリなどというような従来の武雄の自慢の食の品々が数々あると。市長が推し進めている楼門朝市なども武雄に来て泊まっていた皆さんに楽しんでもらうものであり、材料は非常にそろいつつあると。じゃ、今後どうするかと。これからは武雄に呼んでこないといけないと。何で呼ぶか。そこで考えられるのが、やっぱりスポーツである。スポーツだったら人は動く。卵が先か鶏が先かなんてない。施設がなければ開催できない。施設のあるところへ人は集まるのだからというものでした。

まちづくり交付金などといった国の補助金や宝くじ、t o t oなどといった補助金をうまく利用し、そして合併特例債などで施設の新設を行うべきではないかというような意見があります。以前の答弁でも後世に借金を背負わせてはいけないという答弁もいただきました。しかし、今我々が考えてなかなかできないのに、後世の方たち、例えば、私たちの子どもたちの時代、そして孫たちの時代を考えると、今動かないと、そのときは特例債もないとなると、なおさら動けなくなるのではないか。今の時点でも耐用年数を過ぎているような施設が目立っているのに、そのときになればなおさらだと危惧されております。

武雄町のまちづくり協議会が行われた町民アンケートでも出てきているわけですし、市のホームページ上にも要望は多数上がっておるようです。先日行われた県民体育大会の武雄市選手団の結団式でも武雄市体育協会会長が申されておりました。4年後と言いたいが、4年後は難しいかもしれない。でも、8年後、2016年でもいい、この武雄市からぜひ初のオリンピック選手を出したいというごあいさつがありました。本当に夢のある話ですし、現実そのようになったら、どれだけすばらしいことかなと。あの選手は佐賀県の武雄市出身ですよというようになれば、地域浮揚にも十分つながることだと思える次第です。そのためにも、ハード面の強化、スポーツ施設の充実、ぜひこの声にこたえていただきたいということをお願いして、次の質問に入りたいと思います。

鉄道高架が2月17日に1次供用され、式典や高架を祝う会が開催され、大きなにぎわいのうちに終了したことは皆さん御存じのとおりであります。残る北口側が急ピッチで進められており、平成21年秋には全体が完成するものと期待しております。武雄市40年の念願がこうして花開いたわけで、この間、関係者の皆様の御尽力には改めて敬意をあらわします。

その高架切りかえにより線路の撤去作業が進んでいるわけですが、肝心の西浦交差点のガードがいまだ撤去されておられません。これはきのうの一般質問でも行われたわけですが、昨

日の答弁の中で9月末までには線路の撤去、つまり上部工の撤去が予定されているようですが、これについては一体何日程度工期がかかるものなのでしょうか。というのも、ガードの部分ではありませんけど、小楠交差点のところですね、一日二日の夜間作業だけでなくなっていました。そういったものもあるものですから、ちょっと具体的にどういうふうな日程で撤去をされる予定なのか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

ガードの撤去につきましては、一日二日全面通行どめという形で、これは夜間ですけど、夜間の全面通行どめという形での撤去ができる。その日程が9月いっぱい終わるということです。まだ正式な何日からするということまでスケジュールは決まっておられません。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

やはりガードになっておっても一日二日の全面通行どめでできるような形にはなるわけですね。

それでは、そこの同じ西浦交差点のことですけれども、線路を支えているコンクリートの部分といいますか、基礎部分、下部工というんですか、上部工は上から上がっていく場合に線路が影響して信号が見えにくいという不便な思いもあるんですけど、今度、下部工にしてみれば、これまた交差点に入らんとコンクリートの壁がしっかりガードになっていて、本当に頭を出さんと見えないような状況になるわけですよ。しかも、あそこの交差点は夜の10時から点滅信号になるけん、なおさらですね、線路だけはもちろんすぐ撤去してほしいんですけど、今度、その次の下部工もぜひ撤去を望まれているわけですけれども、この下部工についての具体的な日程が決まっていれば御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

上部工が何しろ今発注されたばかりで、昨日も申し上げましたが、上部工は全部で14カ所あるわけですね。それが3月1日までという形になっています。それで、上部工が終わり次第、ずっと下部工を撤去していくことになるわけですが、今、その発注の準備を県のほうでされています。県のほうにお伺いしましたところ、年内には発注すると。年内には発注して、年度内の全地区の完了を目指しているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1番（上田雄一君）〔登壇〕

年内に発注されて、年度内にはやりたいというようなことですね。

それでは、ぜひ早急にやっていただきたいんですけども、何しろあそこの西浦の交差点、通勤・通学等にも影響するわけですよ。さっきの年度内に終わるとというのが目標であるような感じですけども、その場合も夜間とか、例えば、深夜だけの作業で可能なのか。例えば、片側通行をできるようにして行ったりとか、通行どめにして終日行うというようになるのか。その場合、どれぐらいの工期が必要になるかなと思うわけですよ。というのも、数日程度であれば、上部工のように一日二日というふうなことであればいいんですけど、あの場所を工事するとすると、同時に、上水道工事とか下水道工事というのも控えているということで、どうせやるなら一緒にやってほしいなど。1個が済んだら、またあそこば掘りよんさるというふうに思われてもまたあれでしょうからですね。ただ、長引くようであれば、せめて歩行者だけでも必ず通れるようにしてもらいたいと思うわけですよ、別の一時的な代替ルート等も用意してもらってですね。

というのも、あのガードというのは子どもたちが、通学圏には余り関係ないんですけど、例えば、ちょっと武雄町内の子に限っての話になるんですけど、御船に通っている野球団、女子のバレーが毎日、社会体育の練習で武雄小学校に歩いて移動しよるわけですね。逆に言う、武雄小学校に通っているFCノーティーズさんのサッカーとかジュニアバスケットとか、そういった子は逆に武雄小学校から歩いてとか自転車であそこを移動していきよるわけですよ。それが全部通行どめになったとなると、かなり遠回りして行かんといかんような形になるけん、子どもたちはどうしても歩いて通っているような形ですので、その辺の対応というのはどのように考えられているか御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

松原のガード部分については、今年度、区画整理のほうで交差点計画もしているわけですね。あそこにつきましては、高架事業と区画整理事業と下水道事業、この3つの事業がふくそうします。それで、県が上部工が済んだ、下部工が済んだというときに、今度は交差点の改良工事を区画整理のほうで出します。それと同時に、松原地区の宅地造成の工事もそのとき発注するわけですね。それで、そうしながら、今度は旧国道ですね、西浦のほうに行く、あの通りに下水道の管も入れにゃいかんわけですね。ですから、物すごく今回ちょっとふくそうします。ふくそうして、最終的に全部完了するというのは来年の夏時分になるんじゃないかなというふうに思っています。

それで、その工事につきましては、必ず交通規制がかかります。それでもって、公安委員会と調整は随時行うわけですが、何しろ今議員がおっしゃられるように、児童・生徒の通行

には支障がないように、今議員もおっしゃいましたけど、別ルートでの確保とか、そういう形で安全面には十分注意しながらやっていきたいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ安全面を考慮して行っていただきたいと思います。

それでは、続いて区画整理といいますか、高架、区画整理の両事業を起爆剤にして新しい商店街の形成がまちづくりにつながるものと期待され、当時策定されました中心市街地活性化計画にも大きく取り上げられておりました。しかしながら、10年を経過した今、高架が切りかわり、本格的な松原地区の区画整理に入る時期になりまして、残念ですが、武雄の中心商店街は疲弊し、このまま進めても商店街の形成は大きく期待できるのかなど。残念ですが、そこまでどうなのかなというような気もするわけです。聞き及ぶところ、宅地面積が小さく、活用しようとするれば共同利用しかできないと。あるいは後継者がいなかったり、資金の問題など、さまざまな理由があるようではございますけれども、このような状況の中で、本当に活性化というのは実に難しいのかなど、どうなのかなと考えるのは私だけではないのじゃないかなと思います。

区画整理事業は84億円という多額の経費を要しますので、投資はしたものの、松原通り再生はできないというのでは、事業効果としても問題があると思われれます。そういう中で、やはり再生は今までのようなやり方では難しく、新たな発想で取り組む必要があるように感じます。

まず、これについてですけれども、仮換地など進める上で地元地権者との協議というのはどのようになっているか。今の松原通りの皆様にとって望まれるように行うことが必要ではないかと思うわけです。特に、商売を継続される方、またそうでない方いらっしゃると思います。そうした中、ゾーニングを行い、売ってもいい方の土地、そして売りたいくない人の土地を集約していくようなやり方を行うべきでないかというのを平成19年の3月議会でも一般質問させていただきました。減歩の関係もあり、そして長年親しんだ場所ということもあり、もろ手を挙げてというわけにはいかないですが、地元地権者の皆さん、商店街の皆さんが納得するような施策が必要であります。

売ってもいい方も、またそうでない方も、松原通りの再生、まちの活性化を思う気持ちは一緒なんです。そういう中で、今後、この区画整理事業をどのような手法で進め、まちづくりにつなげていこうとされているのか御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

松原、これは皆さん今までの地元説明会で言われたことが、早うせろというのが一番です。早うしてくれと。そういうところから、今回8月に地元提案したわけですが、議員おっしゃられるとおり、売りたい方、貸したい方、あるいは再建する方と、この3つのグループに集約換地をしたいと、そういうふうなことで換地を進めてよろしいでしょうかという提案をしたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

まさにそうですね。そのときの3月議会での答弁も、今回の答弁でもありましたように、集約換地、これはやはり必要かなと思うわけです。私もぜひその手法でお願いしたいと。そのほうがいいと思うわけですが、そうした場合に、ここで企業誘致的な発想で、望まれる施設に集約換地をして、もちろん売られる場所の土地ですね、ここを企業誘致的な発想で考えるということはどうかと思うわけですが、それについて、例えば、企業誘致的な発想で望まれる施設に限定するような方法というのがとれないものかなと。そうすることによって健全な立地を促進できることになりまして、そういった基準づくりというのを検討されている経緯はあるのかどうか御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御説明いたします。まず、基準の前に、ちょっと内々確認しよるでもんね。この土地があけば来ていただけますかというのは手分けして今調整を实はしております。ただし、はかばかしい回答はやっぱりないわけですね。先ほどおっしゃったように、なかなか1個の区画が狭いと。どれだけ広くとっても狭いと言ったりとか、あるいは駐車場の問題であるとか、我々がもししなくても、本当にここに立地が興味があるとするならばやっぱり来るでもんね。コンビニエンスストアがまずそうだと思います。そういう意味で、あそこに基準をつくっても、もともと潜在的な——失礼な言い方になりますが、今の時代での潜在的魅力がなかなか発揮し得ないんじゃないかということは思っております。しかし、松原の皆さんたちの、8月12日に夜、実際行ってまいりました。役員会に足を運んで行ってまいりましたけれども、それでもやっぱり誘致をしてほしいという切なる声がありますので、これはまた声を高くして持ってきたいというふうには思っております。

その上で、もうオーダーメイドですよ。要はこういうところが来たいといったときに、来やすいように基準をつくるということがいいのかなと。だから、基準ありきじゃなくて、話をしながら、こうやったら来れるということをするのが現実的かなというふうには今のところは考えております。

いずれにしても、企業誘致的発想というのは私も賛成であります。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

企業誘致的な発想で考えた場合、集約換地をする場合、どうしても地権者というのが出てくるわけであって、企業誘致をする場合、民間の開発をする場合に、どうしてもそこで松原通りでやりたいというふうな話が例えばあったときに、その土地購入を考えた場合に、ここからここまではこの人、ここからここまではこの人というようなことであつたら、早う開発をしてほしいという松原の人たちの願いというのが、どうしてもそこで時間的なロスというのがかなり生まれてくるんじゃないかなと思うわけですよ。

そういったところで、区画整理事業というのは換地という方法しかないというのはわかっていますけど、企業誘致的な発想でそこを行政のほうで、市で一たん購入して開発者のほうに売り渡すといった手法がとれないものかどうなのか、ぜひそこを答弁願いたいと思いますけど、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、意向調査を内々いたしました。その結果、大体60%の方が土地を売却したい意向でございました。だから、そういう意味でいうと、上田議員がおっしゃるとおりであります。その上で、市が、あるいは土地開発公社が土地の購入となりますと、先ほどおっしゃったように、区画整理事業では購入できないんですね。やっぱり制度上、それはできない。そうすると、それを企業誘致的に買い上げるためには別途事業を立ち上げなければいけません。制度と言いかえてもいいかもしれませんが、条例つき、あるいは予算になるかわかりませんが、事業、制度を立ち上げることとなります。土地区画整理事業でできない制度、事業というのをつくらなきゃいけないということになります。

この際、どうしても申し上げなければいけない論点が2つあります。その1つが、まず地元の皆さんたちが、あくまでも松原地区というのは自分たちの地区でありますので、地区の皆さんたちがどういう計画、事業の目的、位置づけをするかということがまず第一、必要であります、まちづくりについてはですね。その上で、これは多額な財政支出を伴うこととなります。したがって、財政計画がこれで組めるかどうかということはきちんと、ほかの事業もあります。きのうは北方の幼稚園の位置づけの話も出ましたし、先ほど上田議員が体育館の話——体育館というか、運動場か体育館かわかりませんが、そういう話も出ています。そういったときに、ほかの事業との整合性をとらなきゃいけない。それともう1つが関係者、これはさまざま関係者がいらっしゃいます。関係者、そして議会の理解がきちん

と得られるかどうかということについては、十分検討してまいらなきゃいけないということですので、これで検討もしないということはありません。いずれにしても、ハードルは高いということだけは御承知おきいただければありがたいと思います。検討は開始したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ハードルが高いというのは十分理解できます。そういう中でも、やはり松原地区の皆さんというのはとにかく早うやってくれと、早う何とかしてほしいというのが切実に伝わってくるわけですね。私も地元の皆さんといろいろお話をさせていただいたときにも、やはりとにかくずるずるまた期間だけが延びていくような状況は何としても避けてほしいと。うれしいことをおっしゃった方もいらっしゃったんですよ。実は急にもう1年待ってくれというようなアクションがあったと。ただ、それに対して何でやと思っちゃったけど、ここ数カ月の職員の動きを見よったら、それば全部取り戻そうで一生懸命なっとなさんと、そういう声も聞きました。そして、若手の経営者の方から、何もしないと変わらんし、やっぱり私たちが動かんといかんと。そして、商店街の体力が弱まっている分、区画整理事業が起爆剤になるし、これから本当におれは楽しみですとおっしゃっている方もいらっしゃいました。

大なり小なりリスクを伴うことにはなりますけど、松原通りは駅から温泉へのリード線であり、この通りがきれいにならないとどうしようもないと。良好な土地利用が可能となって、ちょっと寂しいことですが、売却希望者が60%ぐらいとおっしゃっていましたが、商店街としてみれば本当寂しいなというのもあるんですけど、でも、前向きに考えれば、それだけなおさら開発するスペースというのはふえるわけですね。ちょっと言い方は悪いですけど、そういったふうに市が仲介して転売をするといったのをぜひ取り組んでいただきたいなと。そのためにも、19年の3月議会でも申し上げましたが、ぜひ行政が音頭ばとって考えていていただきたいなと思います。

先日も地元の敬老会に出席し、皆さんとお話しさせていただいたわけですが、その中に、今度の議会で市長に企業誘致ばするごと10回言うてきんしゃいと言われたとですよ。10回は言い切れませんが、工業団地での企業誘致だけではなくて、そういった商店街への企業誘致もぜひ積極的に動いていただいて、松原通りの再生をぜひ実現していただきたいなと思いますけど、今の率直な気持ちを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、やっぱりよかったなと思っているのは、8月12日の夜に松原地区の役員会にお招きを

いただいて、ひざ詰めでお互い本音を話すことができました。行政でできることできないこと、私もこういう性格ですので、できることはできると言います。できないことは、やっぱりこれはできないということで、それが理解をしていただいて、今の職員の本当にうれしい言葉を聞きました。私も時期を見つけて、もう一回松原通りの、特に役員の皆さんとやっぱり話をしたいなというふうに思っています。その上で私が聞きたいのは、やはり地区にお住まいの方々がどういうものをお望みかというのは、それを踏まえた上で動きたいとやっぱり思うんですね。そうしないと、やれトップダウンとか、またいろいろ言われますので、それは十分に聞きながらきちんと動きたいというふうに思っております。

そういう意味で、上田議員にお願いがあるのは、こういう話があるよ、こういうのがいいんじゃないかといったことについては、どしどしお寄せいただければ、私はそれに基づいてしっかり動いていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ松原通り再生に活躍をいただきたいと思います。

それでは続いて、子育て支援についてに入りたいと思いますけれども、今の日本、そして佐賀県、この武雄市もそうなんですけど、すべてに言える最大の社会問題の一つに少子・高齢化があると考えます。現在、我が国は5人に1人は高齢者であり、2055年には4人に1人になり、65歳未満の生産人口1.3人で65歳以上の高齢者1人を支える社会になると言われております。そのために我々がやるべきことは何なのかなと。やはり支える側の人口をふやす、つまり少子化に取り組むべきだと考えるわけです。

子育て支援の根底の根底に少子化対策があると思うわけなんですけど、これは子育て支援と少子化対策というのは完全に一緒じゃないわけなんですけど、その少子化について、今の市長の見解を答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

基本的に少子化の問題を語るときには、やっぱり歴史を振り返らなきゃいけないというふうに思っております。そういった意味で、大体少子化というのは波があるというのが世界各国で見られている状況であって、下に落ちるときというのは将来に対する明るい展望がないとき、それともう1つが子育てをすることが非常に大変ばいといったとき、これは数字で現実に出ているわけですね。ですが、これは例えが悪いかもしれませんが、じゃ、国が

戦乱に陥ったときに出生率は落ちているかといったら、それはそうでもないんですね。むしろ上がっていますので、それは多分将来に対する、未来に対する期待がそれを上回っているというふうに私は解釈をしています。

その上で言うと、我々は2つ考えなければいけない。1つは、政治家として未来に対して明るい展望を持たせるような社会を提示しなきゃいけないということがまず大事であります。それともう1つが、今の状況下において、なるべく子育てをしていただく人たちの負担をやっぱり減らさなきゃいけない。これは痛みを伴います。財源が限られていますので、これをやることによって、どうしてもこれは目をつぶってくださいという部分が出てくるかもしれません。これによって、例えば、ここは道路は通せませんとかいうのまで出てくるかもしれません。ですが、そういったことをしないと、私は抜本的な対策にはならないというふうに思っています。

これは言いわけに聞こえるかもしれませんが、一自治体で少子化云々というのはやっぱりなかなか厳しいんですね。ですので、これは古川知事も話をしておりますけれども、最低限、県レベルできちんとやんなきゃいけないということは常々トップ同士では話をしていますし、古川知事も十分な理解をいただいております。そういう意味で、県、市町挙げて、できることは精いっぱいやるということが少子化の対策の一つだろうというふうに思っています。

それとこれは最後にしますけれども、フランスのことを一言だけ言わせてほしいんですけど、一言だけ。物すごい出生率が今の日本の半分ぐらい落ちたときがあります。これはちょうど15年前であります。しかし、今どうなっているかということ、日本で一番出生率の高い沖縄県を上回っています。それはなぜかということ、税額控除です。ほとんど3人目ないし5人目はただにしてしまったわけですね、その州自体が。だから、そういったことで、1人目、2人目、3人目になったときは非常に、だから、みんな3人目を産もうと、産みたいというふうに社会全体がなって、あわせてそれを支える社会的なスキームというか、制度ができたということ聞いておりますので、こういう税ですよ。税も、やれ下げるとか上げるとかじゃなくて、子育てのほうにやっていくと。しかも、子育てにいうと、国全体の予算のたった4%です。たった4%です。たった4%が福祉費のいわゆる子育ての経費なんですね。これをどう見るかということなんですね。ですので、私はそういった意味でも、国に対してもきちんと働きかけていく必要があるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そういった税額控除等々、県レベルでぜひ考えていただきたいなと思います。

その中で、その税額控除等々は、ちょっといえば3人目以降とか、そういったケースを

考えられるかなと思うわけですが、実際、我々青年会議所のほうで少子化に対して何か取り組みたいなど、何かないかということで取り組みよった場合、どうしても少子化の背景に我々生産世代の未婚化、晩婚化というのが原因にあるんじゃないかということで、その未婚化、晩婚化をどうにかしないといけないじゃないかということで、ケーブルワンさんにも放映いただいて、これは市長見られたかどうか、見られましたか。こういった取り組みがぜひ必要なことじゃないかなと思っておるわけです。

現実問題、1970年代ですね、つまり市長や私の親世代といいますか、その年代は30代で9割以上が結婚していらっしやいました。生涯未婚者というのが約2%から3%で、ほぼ全員が結婚していたという事実です。しかし、現在、50歳時の生涯未婚率というのが2005年で16%という状況で、これはますます増加する傾向であり、今後、確実に25%以上、つまり4人に1人は結婚しない人生を選ぶことになると言われてしているわけです。仮にすべての方が結婚するとした場合、今の適齢期の未婚者数も男性が女性より231万人多いという現実から、231万人以上の男性が生涯独身を選択せざるを得ない状況にあるのかなと。そういったところが総務省の国勢調査のほうで明らかになっているわけです。

そういうことから、杵藤地区広域市町村圏組合のほうでドリームキャッチとして長年出会いの場の創出に取り組まれており、我々社団法人武雄青年会議所のほうでもフューチャークリエーションとして出会い創出の場に取り組んでいる次第です。そういった第3子じゃなくて第1子を考えてもらうような、要は結婚の増加ですね、そういったものの対策というか、そういったのについては市長の見解をお伺いしたいと思います。御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄に帰ってきてつくづく思うのは、やっぱり出会いの場のなかということですね。東京、大阪、沖縄、こういうところはいろんな出会いの場のあるわけですよ。そういう意味でいうと、武雄は、いや、あそこに行くぎんた、あそこに知っとんさる人のおんさるもんねとか、だから、そういう出会いの場がないかな。だから、ちょっとこれは批判めくかもしれませんけれども、武雄、あるいは杵藤地区の中でいろいろやっても、やっぱり同じ状況だと思っんですよね。やっぱりちょっと行かれんなとか、目の気になるなど。

それで、1つちょっと提案をしたいというか、実際これはやろうと思って一回ポシャったとですけども、まだやりたいと思っているのは、実は私、福岡に出張をしたときに、そのときにあわせて講演する機会があって、そのとき女性ばかりやったとですね。そのときに武雄に嫁に来たい人と手を挙げてもらったら、50人中三十七、八人ですよ。多分その中ではサーブスで挙げた人もおんさると思いますけれども、じゃ、どういうところがよかねと聞いたら、いや、何かやっぱり都会で一生生活をするよりは、結婚するのを機に、こういう田園と

か農村風景で働きたいと、やっぱりニーズが変わってきておるわけですね。したがって、今思うのは、これはテレビでもありますけれども、農村合コン。それでもう1つは、私も思います。やっぱり働く人の背中が格好よかです。だから、農家の方々に、多くとは言いませんけど、口下手な方でなかなか自己アピールのできんような方でも、やっぱり掘ったり耕したりする姿は男から見てもほれぼれとします。そういう実際働いている姿を見せてもらいながら交流を深める企画はぜひしたいというふうに思っております。

だから、そういう意味で言うと、武内町とかどうかなと。やっぱりそういう温かい迎えるような気持ちもあるわけですね。だから、橘町でどうかなということも思っております。黒尾もよかかもしれません。だから、そういうふうに、実は出会いの場を見つける、つくるというのは、恐らく地区も一緒にやっていると。そしたら、ああ、あそこに住みたいなど、朝日の川上に住みたいなどいうふうになる、北方に住みたいなどなるかもしれない。それがこれからちょっとやっていきたいかなと。これをイベントというか、企画でやるかというのは、杵藤広域圏は私は管理者でもありますので、これはちょっと私も入ってやってみたいというふうに思っています。

ちなみに私はこれをテレビでも見ましたけれども、非常に高視聴率だったということですので、パクってまねをしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

農村合コンというのが出てくるとはびっくりしましたが、ぜひそういった形で結婚のアップにぜひ努めてもらいたいと思います。実は私の周りも大分独身の仲間といますか、友人といますか、多数おまして、本人さんたちはそうまで危機感を持っていないんですけど、その親御さんから大体会うたびにやかまし言われるのが私たちなんですよ。早う世話せんかと言われるんですけど、なかなかそう簡単に、私たちもそういう情報がなかなかないものですから、そういったところで、市長の前向きな答弁には安心しました。そういった少子化対策もぜひ取り組んでいってほしいなと思います。

その際——その際じゃないですね。前回、基調講演をした後に来場者アンケートをとったわけですね。その中に、少子化対策として今後何が必要かという項目で見受けられたのが、子育てしながら働ける環境づくりというものがありました。これは雇用による収入の安定という意味もありますけれども、出産後の就労についてもありました。子育て中の親の悩みというか、いろいろあると思うんですけど、その中の1つに雇用の問題があると思います。

母親の就労についてですけれども、各家庭でどちらに重きを置くかという違いがあるのはわかります。現在、武雄市のほうでは未就学児全体のおよそ6割の児童が保育園や幼稚園に預けられて、親御さんは仕事をされていらっしゃるようです。しかし、これが3歳未満の子

になると、保育園、幼稚園に預けられている児童数というのは実に3割になるわけですね。これによると、7割の児童の皆さんの親御さんが子育てに重きを置いていらっしゃるか、また、何らかの理由で家庭保育を選択されているというのがわかるわけです。どちらも一長一短考え方があり、どちらが正しいとか、どちらが間違っているというのはもちろんありません。しかし、その中には、やっぱり以前御紹介したように、働きたいけど、もしくは働かなければならないけど、子育てで定期的な通院や突発的な通院といった形で、子どもを育てる上で何かと都合がつけられず、なかなか御自分の都合のいい職場にめぐり合わないなど、条件が合わないケースも現実的に多数いらっしゃいます。

市長にそういう声が恐らく届いているかと思うわけですが、これについての見解もお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

質問が非常に高度で難しゅうございましたので、ちょっと漏れがあるかもしれませんが、基本的に結婚、出産、子育ての選択は、言うまでもなく個人の選択にゆだねられるということなんですけれども、子どもの育成であるとか、そういう生活というのは、それは社会全体が支える、特に地区、部落が支えるように今の時代はなっているというふうに思っております。そういう意味で、そういう地域づくりとか、雰囲気づくりを進めるための政策をしていかなければいけないと。

それともう1つが、ああ、解決はなかなかできんやったけど、あそこに相談してよかったというような心温まるような窓口をきちんとつくる必要があると。そういう意味で言うと、今、こども部を再編統合してつくりました。こども部であったり、子育て総合支援センターを窓口にして、しっかり聞くということが必要なのではないかなということを思っております。

それと私がよかったなと思っているのは、私はちょっと都合でケーブルワンでテレビで見ましたけれども、あの講演であります。上田議員が先頭に立ってやってもらったというふうに聞いていますけれども、ああいう講演があるということ自体でも、それは非常に子育て世代であるとか、あるいはもう一個上の方々とか、ああ、こういう催しがあるんだと、これで勉強になったと。あること自体で武雄市はそういういい方向に向かっているんだという明確なメッセージにもなります。そういう意味で、私は聞いていただいたことに感謝をしておりますし、また、我々としても教えていただくさまざまな機会もつくっていかねばいけないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1番（上田雄一君）〔登壇〕

そういったところで、子育て中のお母様方、お父様方ももちろんいらっしゃるかと思います。そういった方の、なかなか自分に都合のいいような職場にめぐり合わない人、また、そういう人たちを集めて何か新しい事業を立ち上げようとする人、そういったところの相談窓口といいますか、そういったのはやはりこども部であったり子育て支援センターであったりというようなところですね。そういったところで行う場合に、仮に、きのうの答弁の中にもありましたように、ちょっと補助金目当ての商売というのは絶対成功せんと、私ももちろんそう思うわけですね。ただ、例えば、民間だけでどうしようもないようなもの、ただ、そのかわり武雄市の公共性にも関与するとか、目的、それをを行うことによって、例えば、こういう効果が見込めると、そういう子育て支援のサークルの人たちなんかからアイデアとか、そういったのが上がってきた場合の市長のそういったのに対する考え方というのを御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も公務員だったので、よくわかりますけれども、例えば、今まで行政というのはどういうふうな相談を聞いていたかという、恐らく非常に単純に言うと、民間の皆さんたちがしよんさるけんが、多分高いところに立って、これはああしたほうがよか、こうしたほうがよかと、我々は口を出すだけで終わりよと。今、財政難やけんお金もありませんという感じは恐らくどこの地域もあったと思うんですね。すなわちそれが役割分担やったと。要するに民間がやるときには、こうすればよかたい、ああすればよかたいと、恐らく言うぎ、あご、口でしたというのがあったと思うんですね。ただ、私はこれはぜひ改めたいと思うんですね。私もまだまだ不十分ですけども、ぜひ一緒にやっていきたいと。だから、変に役割分担するのではなくて、一緒にやることによって、行政ができることはいっぱいあります。例えば、やっぱり人は来られるわけですね。きのうもちょっと答弁させてもらいましたが、人は来んさるです。そのときに場所を進んで提供するであるとか、あるいはさまざまな情報はやっぱり来ます、私のところにも、職員の皆さんのところにも。だから、こういうふうと一緒にしていこうよとか、行政がそういうふう支援じゃなくて一緒にやっていこうと、手と手をつないでやっていくということが、私は言葉自体はどうかなと思うんですけども、それが本当の協働だと思うんですね。文書の上での協働じゃなくて、走りながら手をつないで一緒にやっていこうと。

それで、あくまでも民間ですので、やっぱり私はそこで稼いでほしかわけです。それを稼いでいったことによって、減価償却じゃありませんけれども、次の事業にまた行くと、それがまた皆さんの所得に入っていくと、そういうふう後押しと一緒にやっていきたいな

というふうに思っておりますので、ぜひいろんな意見というのは、こども部を通じてすべて私のところには来るように絶対したいというふうに思っておりますし、ぜひ私も一緒にやりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そういった形で、ぜひ少子化対策であったり子育て支援であったり、そういった市民の皆さんにとって有意義な事業なり実現することを願ひまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。